2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社インバウンドテック　　上場取引所　東
コード番号　　7031　　ＵＲＬ　https://www.inboundtech.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）下大薗　豊
問合せ先責任者　（役職名）取締役CFO　専務執行役員　管理本部長（氏名）金子　将之　ＴＥＬ　03-6274-8400

半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有　（個人投資家向け動画配信方式）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	2,316	112.1	124	－	103	－	83	－
2026年３月期中間期	1,092	△19.6	△42	－	△65	－	△78	－

（注）包括利益　2027年３月期中間期　85百万円（－%）　2026年３月期中間期　△72百万円（－%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	31.58	31.13
2026年３月期中間期	△33.03	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	5,764	2,648	29.6
2026年３月期	2,553	1,720	53.8

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　1,707百万円　2026年３月期　1,373百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2027年３月期	－	0.00			
2027年３月期（予想）			－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,500	157.8	220	－	190	－	125	－	47.42

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
連結業績予想の修正については、本日（2026年11月13日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有
新規 4社 （社名）株式会社FWほか3社

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	2,792,491株	2026年３月期	2,523,475株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	2,589株	2026年３月期	136,300株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	2,636,255株	2026年３月期中間期	2,369,919株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、第２四半期（中間期）決算短信（添付資料）５ページ「（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 4
（３）キャッシュ・フローの状況 …… 4
（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 5
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 6
（１）中間連結貸借対照表 …… 6
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
中間連結損益計算書 …… 7
中間連結包括利益計算書 …… 8
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 10
（企業結合等関係） …… 10
（セグメント情報等の注記） …… 12
（重要な後発事象） …… 12

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、マルチリンガルCRM事業における日本語案件につきましては、民間企業から受託する案件数は安定的な増加が続いております。案件単位の売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、競合の参入増や係る人件費の高騰などから厳しい外部環境でありますが、前期末からの受注残の消化に加え、第２四半期以降開始となる案件についても計画に近い形で進捗いたしました。一方、多言語分野に係る業務の受注及び入電数については、インバウンド需要増に伴い順調に増加傾向が続いており、今後も安定した成長が見込まれる状況です。

セールスアウトソーシング事業においては、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗しました。また、前期に取得したモバイルプロモーション関連事業について、活動スタッフが緩やかに増加しており、今後新たなセグメントの柱となるよう注力しておりますが、本案件のみならず、セグメントにおける案件パイプラインの拡大を模索しております。

また、当社において2026年６月９日付適時開示「簡易株式交付による株式会社FWの子会社化の結果に関するお知らせ」によるお知らせのとおり、幅広い分野の一括見積・資料請求サイト運営による情報提供サービスを展開する株式会社ウェブクルーの完全親会社である株式会社FWを同日付にて子会社化いたしました。これにより当社グループの収益拡大に向け、同社との協業について具体的なプランがすでに立ち上がっております。なお、同社の業績については2026年７月から新たにWEBサービス事業セグメントとして中間連結損益計算書に含まれております。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は2,316,925千円（前年同期比112.1%増）、営業利益は124,629千円（前年同期　営業損失42,427千円）、経常利益は103,627千円（前年同期　経常損失65,329千円）、親会社株主に帰属する中間純利益は83,253千円（前年同期　親会社株主に帰属する中間純損失78,286千円）となりました。

	前中間連結会計期間 （千円）	当中間連結会計期間 （千円）
売上高	1,092,225	2,316,925
営業利益又は営業損失（△）	△42,427	124,629
経常利益又は経常損失（△）	△65,329	103,627
親会社株主に帰属する中間純利益又は中間純損失（△）	△78,286	83,253

また、四半期会計期間毎における経営指標は以下の通りであります。

	第１四半期 連結会計期間（千円）	第２四半期 連結会計期間（千円）
	自2026年４月１日 至2026年６月30日	自2026年７月１日 至2026年９月30日
売上高	706,172	1,610,753
営業利益	33,906	90,723
経常利益	32,013	71,614

セグメント別の状況は以下のとおりであります。また、各事業分野のセグメント利益は、全社管理部門費用213,231千円を含まない額であります。なお、2026年６月９日付で、株式会社FWを株式交付子会社とする簡易株式交付により同社を子会社化したため、当中間連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。これに伴い、当中間連結会計期間より「WEBサービス事業」を新たに報告セグメントに追加しております。

・マルチリンガルCRM事業の概況

マルチリンガルCRM事業におきましては、日本語を含む13言語を活用し、外国人と日本人のコミュニケーション問題を解決する多言語・通訳ソリューションを24時間365日体制で提供しております。

当セグメントにおける主要サービスである多言語によるサポートニーズですが、訪日外国人観光客の増加に伴い、当中間連結会計期間については、入電数や新規案件の引き合い増など、インバウンド関連は右肩上がりの状況が継続しております。しかしながら、売上・利益の額が大きい日本語案件と比較すると、その規模は小さいものであるため、今後も営業活動を継続して案件の増加に取り組んでまいります。

一方、案件単位の売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、当社単独での案件については、前期末からの受注残の消化に加え、第２四半期以降開始となる案件についても計画に近い形で進捗いたしました。アライアンスパートナーである株式会社日本旅行との連携による、公務・地域事業の共同推進においては両社の強みを生かした獲得が進捗いたしました。今後も同社とのアライアンス拡大に注力し、強固なパートナーシップ形成を目指してまいります。民間企業からの日本語案件につきましては、現在注力している通販のカスタマーサポートの領域拡大を中心に新たな収益源が立ち上がっており、今後も更なる事業の発展に注力してまいります。

以上の結果、マルチリンガルCRM事業全体では、売上高は1,153,271千円（前年同期比45.4%増）、セグメント利益は221,867千円（同193.4%増）となりました。

	前中間連結会計期間 （千円）	当中間連結会計期間 （千円）
売上高	793,009	1,153,271
セグメント利益	75,611	221,867

・セールスアウトソーシング事業の概況

セールスアウトソーシング事業では、主に当社がクライアント企業に代わって見込みユーザーに対してインサイドセールス等を行っております。当中間連結会計期間については、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗しました。また、前期に取得したモバイルプロモーション関連事業について、活動スタッフが緩やかに増加しておりますが、前期中に終了となった案件の代替までには至っておらず、今期に計画している新たな案件の立ち上げにも時間を要していることなどから前年同期との比較において、減収減益となっております。

以上の結果、セールスアウトソーシング事業全体では、売上高は193,364千円（前年同期比39.1%減）、セグメント利益は50,390千円（同35.1%減）となりました。

	前中間連結会計期間 （千円）	当中間連結会計期間 （千円）
売上高	317,297	193,364
セグメント利益	77,610	50,390

・WEBサービス事業の概況

当セグメントにおきましては、2026年６月９日に新たに株式会社FWを簡易株式交付にて子会社としたことにより、新たな報告対象としております。当セグメントは主に株式会社FWの完全子会社であります株式会社ウェブクルーによる、「保険」「引越し」「自動車」「教育」など幅広い分野の一括見積・資料請求サイト運営による情報提供サービスの展開によるものです。同社ではウェブサイトにおける運営ノウハウ、マーケティング、広告運用など、インターネットサービスの開発と運営に必要なすべての機能を社内に擁し、スピード感ある事業開発を実現することで、各種サービスを提供しております。WEBサービス事業に係る損益について、当中間連結会計期間では2026年７月よりグループ連結対象とした結果、売上高は986,342千円、セグメント利益は65,602千円となりました。

	前中間連結会計期間 （千円）	当中間連結会計期間 （千円）
売上高	－	986,342
セグメント利益	－	65,602

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当中間連結会計期間末における総資産は株式会社FWの連結に伴う現金及び預金、売掛金、固定資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べ3,211,435千円増加し5,764,985千円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ847,202千円増加し2,668,538千円、固定資産は前連結会計年度末に比べ2,364,232千円増加し3,096,446千円となりました。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債合計は、主に株式会社FWの連結に伴う同社の借入金に関連する１年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の増加及び、同社の顧客資産を認識したことによる繰延税金負債の発生などが影響したことにより前連結会計年度末に比べ2,284,146千円増加し3,116,878千円となりました。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は株式会社FWの取得に伴う資本金等並びに非支配株主持分の増加、自己株式の減少などにより前連結会計年度末に比べ927,289千円増加し2,648,107千円となりました。

（３）キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ107,373千円増加し、現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は1,443,749千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、81,503千円の収入で、売上債権の増加及び仕入債務の減少などにより前年同期に比べ90,950千円の収入減少となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、196,573千円の収入で、固定資産の取得による支出、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入などによるものです。前年同期に比べ203,453千円の収入増加となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、170,703千円の支出で、長期借入金の返済などによるものです。前年同期に比べ154,705千円の支出増加となりました。

（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年５月14日に発表しました2027年３月期の連結業績予想について、株式会社FWの連結子会社化に伴い、2026年11月13日付「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、下記へと修正しております。

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益（単位：円）
前回発表予想（A）	6,300	－	－	－	－
今回修正予想（B）	5,500	220	190	125	47.42
増減額（B－A）	△800	－	－	－	－
増減率（%）	△12.7	－	－	－	－
（ご参考）前期連結実績（2026年３月期）	2,133	△171	△196	△232	△98.07

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,336,376	1,503,959
売掛金	414,266	1,058,327
その他	86,192	139,294
貸倒引当金	△15,499	△33,042
流動資産合計	1,821,336	2,668,538
固定資産		
有形固定資産	115,357	163,283
無形固定資産		
のれん	93,124	219,802
顧客関連資産	235,750	2,294,216
その他	95,990	149,251
無形固定資産合計	424,865	2,663,270
投資その他の資産		
その他	191,991	278,188
貸倒引当金	－	△8,294
投資その他の資産合計	191,991	269,893
固定資産合計	732,214	3,096,446
資産合計	2,553,550	5,764,985
負債の部		
流動負債		
買掛金	81,150	135,253
短期借入金	400,000	400,000
１年内返済予定の長期借入金	108,000	475,000
未払法人税等	8,034	91,372
賞与引当金	－	7,019
役員賞与引当金	－	3,890
その他	196,738	578,721
流動負債合計	793,924	1,691,256
固定負債		
長期借入金	－	548,750
資産除去債務	1,048	1,054
退職給付に係る負債	－	52,828
繰延税金負債	32,409	748,732
その他	5,350	74,257
固定負債合計	38,808	1,425,621
負債合計	832,732	3,116,878
純資産の部		
株主資本		
資本金	554,037	636,285
資本剰余金	542,462	587,446
利益剰余金	400,024	483,277
自己株式	△123,132	－
株主資本合計	1,373,392	1,707,009
新株予約権	21,336	22,934
非支配株主持分	326,089	918,163
純資産合計	1,720,818	2,648,107
負債純資産合計	2,553,550	5,764,985

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	1,092,225	2,316,925
売上原価	907,921	1,138,314
売上総利益	184,304	1,178,611
販売費及び一般管理費	226,731	1,053,982
営業利益又は営業損失（△）	△42,427	124,629
営業外収益		
受取利息	1,334	2,288
還付加算金	202	186
その他	74	110
営業外収益合計	1,610	2,586
営業外費用		
支払利息	3,771	13,592
支払手数料	343	249
貸倒引当金繰入額	－	9,734
事務所移転費用	20,383	－
その他	13	10
営業外費用合計	24,513	23,587
経常利益又は経常損失（△）	△65,329	103,627
特別損失		
固定資産除却損	2,785	－
特別損失合計	2,785	－
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失（△）	△68,114	103,627
法人税、住民税及び事業税	2,546	39,779
法人税等調整額	2,024	△21,479
法人税等合計	4,571	18,300
中間純利益又は中間純損失（△）	△72,686	85,327
非支配株主に帰属する中間純利益	5,600	2,074
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失（△）	△78,286	83,253

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益又は中間純損失（△）	△72,686	85,327
中間包括利益	△72,686	85,327
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△78,286	83,253
非支配株主に係る中間包括利益	5,600	2,074

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失（△）	△68,114	103,627
減価償却費	22,609	35,431
顧客関連資産償却額	20,499	62,533
のれん償却額	14,869	11,042
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△160	20,657
賞与引当金の増減額（△は減少）	△760	1,179
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	－	1,200
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	－	△1,778
受取利息及び受取配当金	△1,334	△2,288
支払利息	3,771	13,592
支払手数料	343	249
売上債権の増減額（△は増加）	139,715	△83,988
仕入債務の増減額（△は減少）	△12,422	△26,161
未払金の増減額（△は減少）	7,240	△57,077
未収消費税等の増減額（△は増加）	2,398	24,276
その他	26,767	△10,503
小計	155,425	91,992
利息及び配当金の受取額	1,334	2,288
利息の支払額	△3,719	△13,660
法人税等の支払額	△15,773	△5,278
法人税等の還付額	35,187	6,161
営業活動によるキャッシュ・フロー	172,453	81,503
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△964	△11,886
無形固定資産の取得による支出	△30,111	△17,455
敷金及び保証金の差入による支出	△951	△13,890
敷金及び保証金の回収による収入	32,421	400
事業譲渡による収入	135,000	－
事業譲受による支出	△142,272	－
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	－	245,611
その他	－	△6,205
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,879	196,573
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△72,000	△181,750
リース債務の返済による支出	△758	△1,759
新株予約権の行使による株式の発行による収入	－	11,457
新株予約権の発行による収入	－	1,598
自己株式の取得による支出	△37,385	－
自己株式取得のための預託金の増減額（△は増加）	94,146	－
その他	－	△249
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,998	△170,703
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	149,576	107,373
現金及び現金同等物の期首残高	1,407,147	1,336,376
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,556,723	1,443,749

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2026年６月９日付にて簡易株式交付により株式会社FWを子会社としました。この結果、当中間連結会計期間において資本金が76,518千円、資本剰余金が39,255千円増加し、自己株式が123,132千円減少しました。また、新株予約権の行使により発行済株式数が26,100株増加しました。この結果、当中間連結会計期間において資本金、資本剰余金がそれぞれ5,728千円増加しました。これらの結果、当中間連結会計期間末において資本金が636,285千円、資本剰余金が587,446千円、自己株式が－千円となっております。

（企業結合等関係）

（取得による企業結合）

当社は、2026年５月13日開催の取締役会において、当社を株式交付親会社とし、株式会社FWを株式交付子会社とする株式交付（以下、「本株式交付」といいます。）を実施することを決議いたしました。当該決議に基づき同日付で本株式交付契約を締結し、2026年６月９日付で本株式交付の効力が発生し、株式会社FWの普通株式の全部を取得し、同社の議決権の全てを取得いたしました。また、本株式交付の実施により、株式会社FWの完全子会社である特化型サイトの運営を行う株式会社ウェブクルー及び同社の完全子会社である株式会社WCS、株式会社Bangも同時に当社の子会社等となります。

１．企業結合の概要

（１）被取得企業の名称

株式会社FW

（２）取得した事業の内容

子会社である株式会社ウェブクルー（一括見積・資料請求サイトの運営による情報提供サービス事業）の経営支援、指導、監督

（３）企業結合を行った主な理由

当社グループとして新たな分野への参入及び、株式会社FW及び株式会社ウェブクルーのシステム開発力を生かし、当社の今後拡大領域と考えるAI部門の強化による業績拡大などが期待できると判断したことによるものです。

（４）企業結合日

2026年６月９日

（５）企業結合の法的形式

当社を株式交付親会社、株式会社FWを株式交付子会社とする簡易株式交付

（６）結合後企業の名称

変更ありません。

（７）取得する議決権比率

企業結合前に所有していた議決権比率　　―%

取得後の議決権比率　　100.0%

（８）取得企業を決定するに至った主な根拠

株式交付により、当社が株式会社FWの議決権の100.0%を取得し、子会社化したことによるものです。

２．中間連結損益計算書に含まれている被取得企業の業績の期間

2026年７月１日から2026年９月30日まで

３．被取得企業の取得原価および対価の種類ごとの内訳

取得の対価　企業結合日に交付した株式会社FWの普通株式の時価	238,906千円
取得原価	238,906千円

４．株式の種類別の交換比率およびその算定方法

（１）株式の種類別の交換比率

株式会社FWの普通株式１株に対して、当社の普通株式1,384株を割当て交付いたしました。

（２）交付する株式数

当社の普通株式：379,216株

（３）株式交付比率の算定方法

当社は、本株式交付比率の検討にあたり、その公平性・妥当性を確保するため、独立した第三者算定機関として株式会社プルータス・コンサルティング（以下、「プルータス」といいます。）を選定し、株式交付比率の算定を依頼いたしました。当社は、両社の財務状況、将来の見通し、当社の株価動向等の要因、およびプルータスから提出を受けた株式交付比率の算定結果を総合的に勘案し、慎重に協議を重ねた結果、本株式交付比率がそれぞれの株主の利益を損ねるものではなく妥当であるとの判断に至ったため、本株式交付比率により本株式交付を行うことにつき、2026年５月13日に開催された当社の取締役会決議に基づき、両社間で本株式交付契約を同日付にて締結いたしました。

５．主要な取得関連費用の内容および金額

弁護士・アドバイザリー等に対する報酬・手数料等85,851千円

６．発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

（１）発生したのれんの金額

137,720千円

（２）発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

（３）償却方法及び償却期間

10年間の均等償却

（セグメント情報等の注記）

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	マルチリンガルCRM事業	セールスアウトソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	774,928	317,297	1,092,225	－	1,092,225
セグメント間の内部売上高又は振替高	18,080	－	18,080	△18,080	－
計	793,009	317,297	1,110,306	△18,080	1,092,225
セグメント利益	75,611	77,610	153,221	△195,648	△42,427

（注）１．セグメント利益の調整額△195,648千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に管理部門等に係る費用であります。

２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	マルチリンガルCRM事業	セールスアウトソーシング事業	WEBサービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,137,218	193,364	986,342	2,316,925	－	2,316,925
セグメント間の内部売上高又は振替高	16,052	－	－	16,052	△16,052	－
計	1,153,271	193,364	986,342	2,332,978	△16,052	2,316,925
セグメント利益	221,867	50,390	65,602	337,860	△213,231	124,629

（注）１．セグメント利益の調整額△213,231千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に管理部門等に係る費用であります。

２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

2026年６月９日付で、株式会社FWを株式交付子会社とする簡易株式交付により同社を子会社化したため、当中間連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。これに伴い、当中間連結会計期間より「WEBサービス事業」を新たに報告セグメントに追加しております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

当中間連結会計期間に株式会社FWを子会社化したことにより、のれんの金額が増加しております。当該事象による「WEBサービス事業」におけるのれんの増加額は137,720千円であります。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。